

# 複数の視点を持つと 見えてくるものとは？

---

令和2年度 学生×地域つながる未来プロジェクト

「#100万人へ発信実験」

滋野 浩毅（京都産業大学現代社会学部）

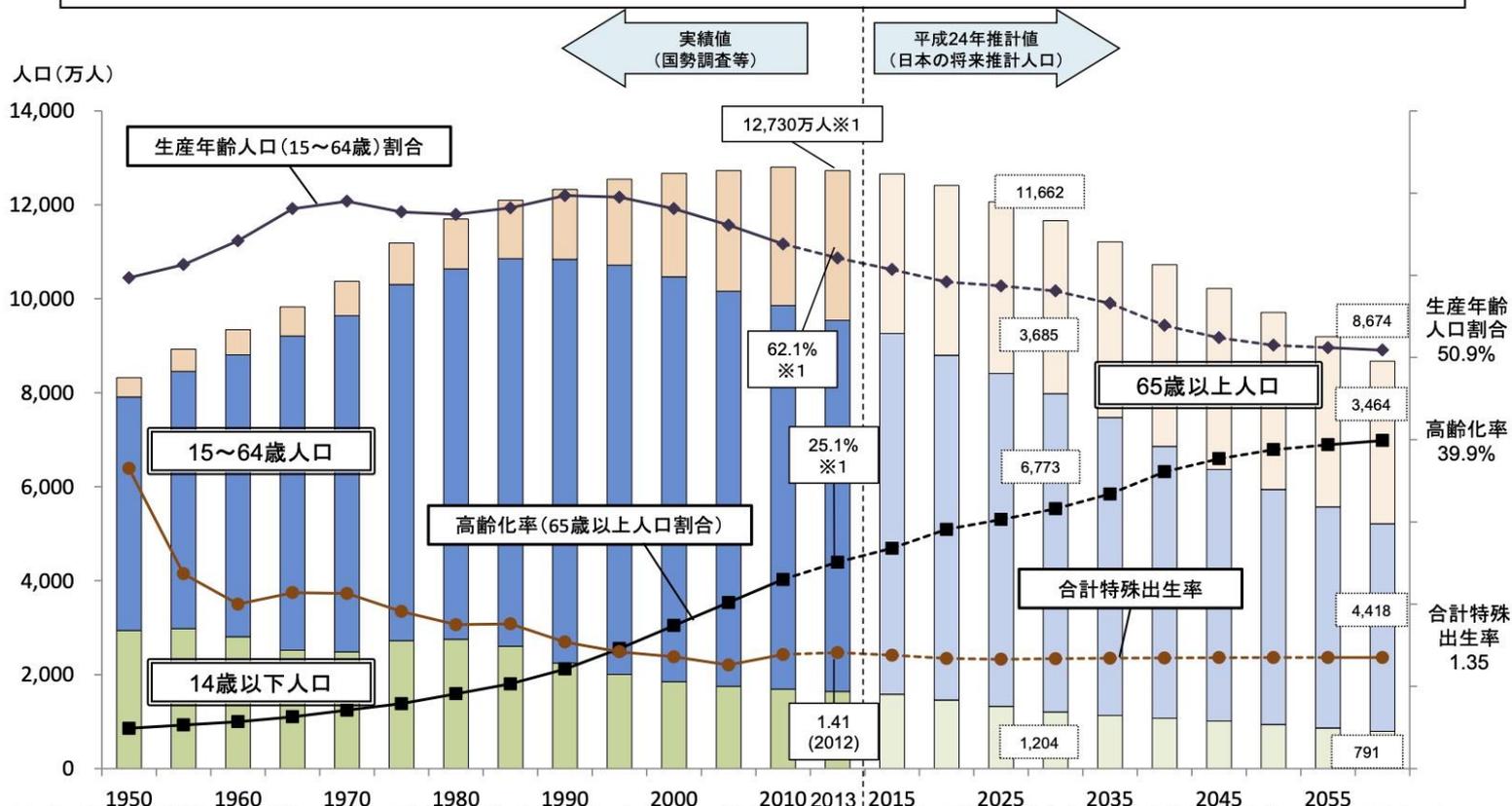
人口減少？

---

# 「人口減少」問題

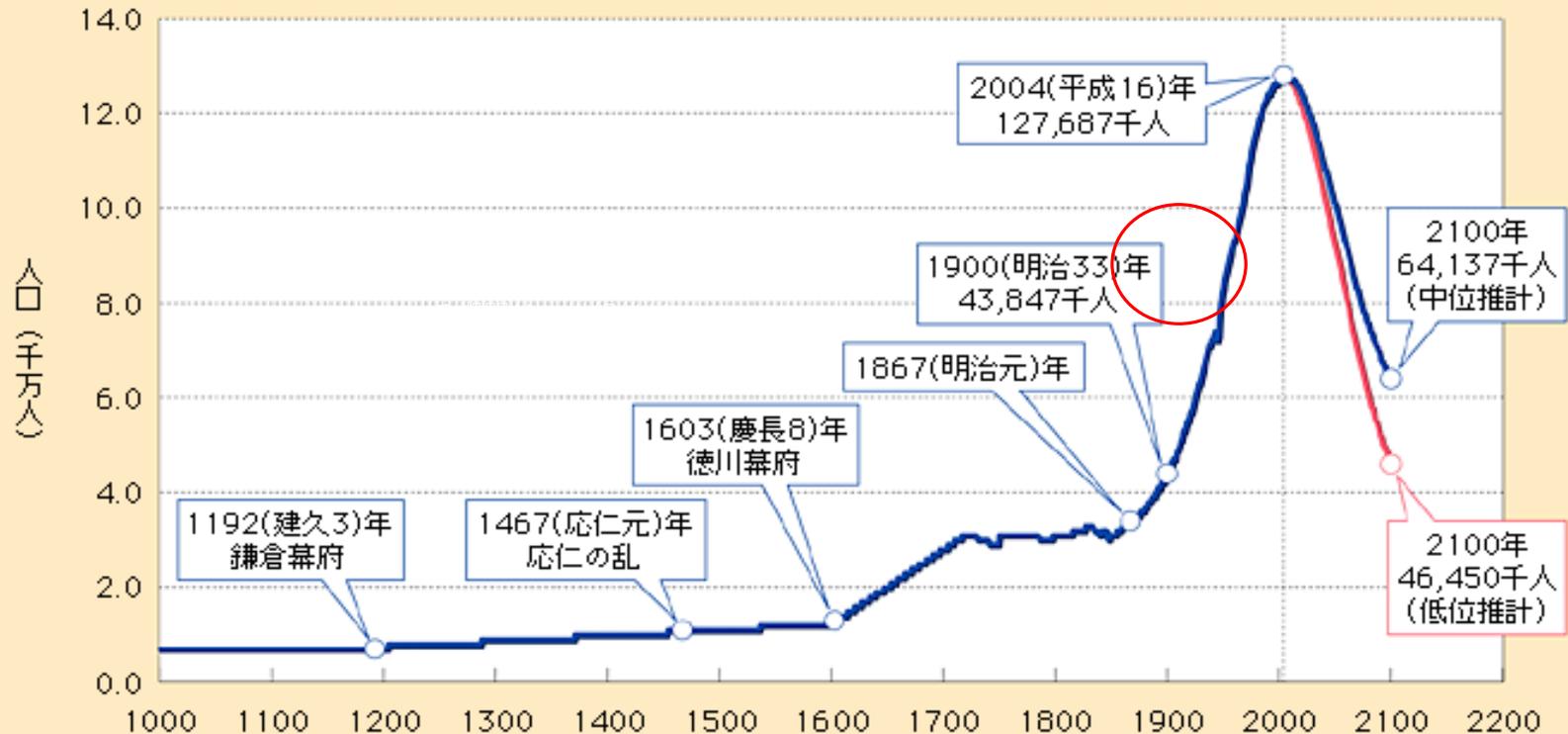
## 日本の人口の推移

○ 日本の人口は近年横ばいであり、人口減少局面を迎えている。2060年には総人口が9000万人を割り込み、高齢化率は40%近い水準になると推計されている。



(出所) 総務省「国勢調査」及び「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計):出生中位・死亡中位推計」(各年10月1日現在人口)  
厚生労働省「人口動態統計」  
※1 出典:平成25年度 総務省「人口推計」(2010年国勢調査においては、人口12,806万人、生産年齢人口割合63.8%、高齢化率23.0%)

# 人口減少？

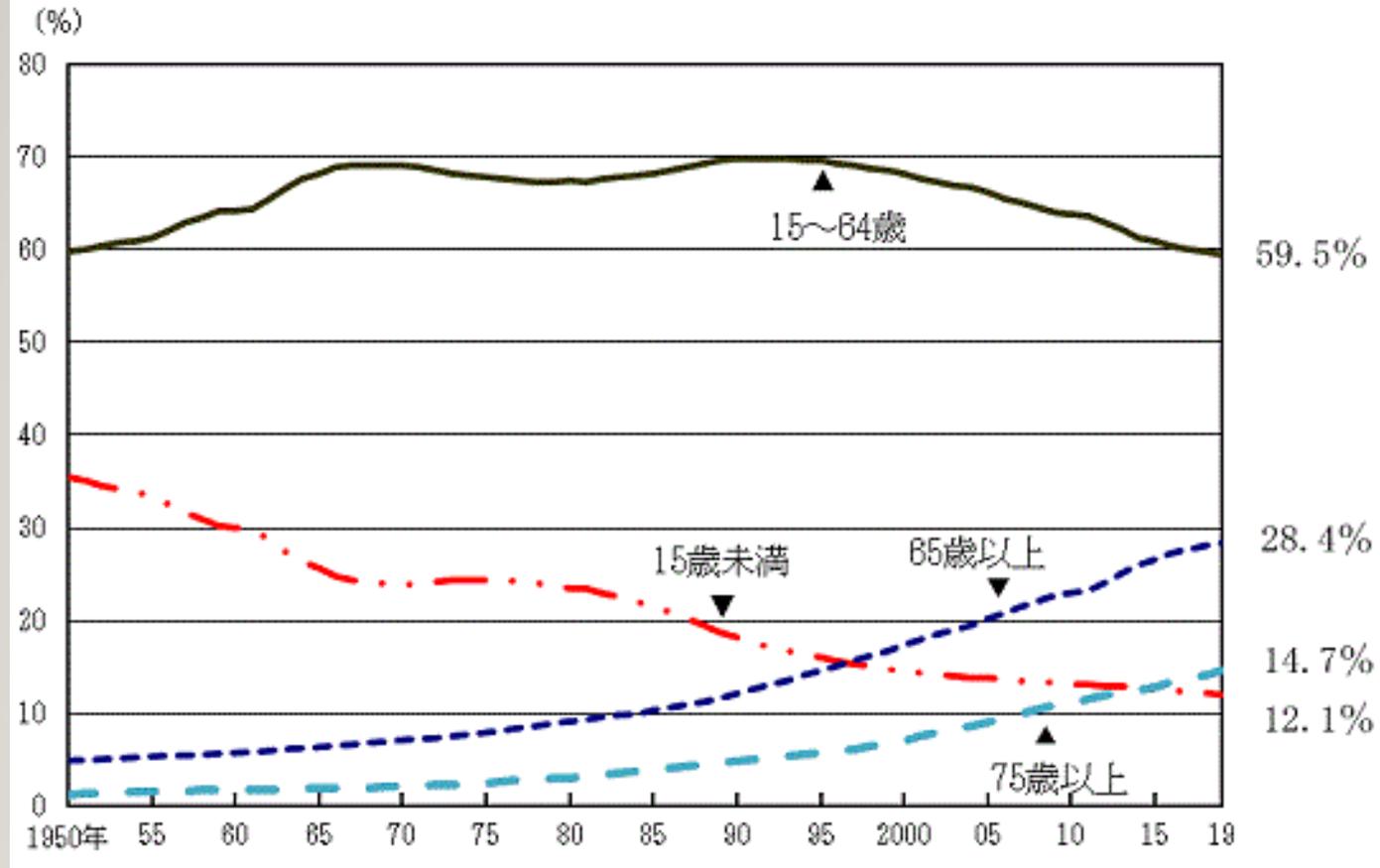


資料：1872年以前は、鬼頭宏「人口から読む日本の歴史」講談社（2000年）、森田優三「人口増加の分析」日本評論社（1944年）による。1872年から2004年までは総務省統計局「国勢調査」、「10月1日現在推計人口」による。2005年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成14年1月推計）」。

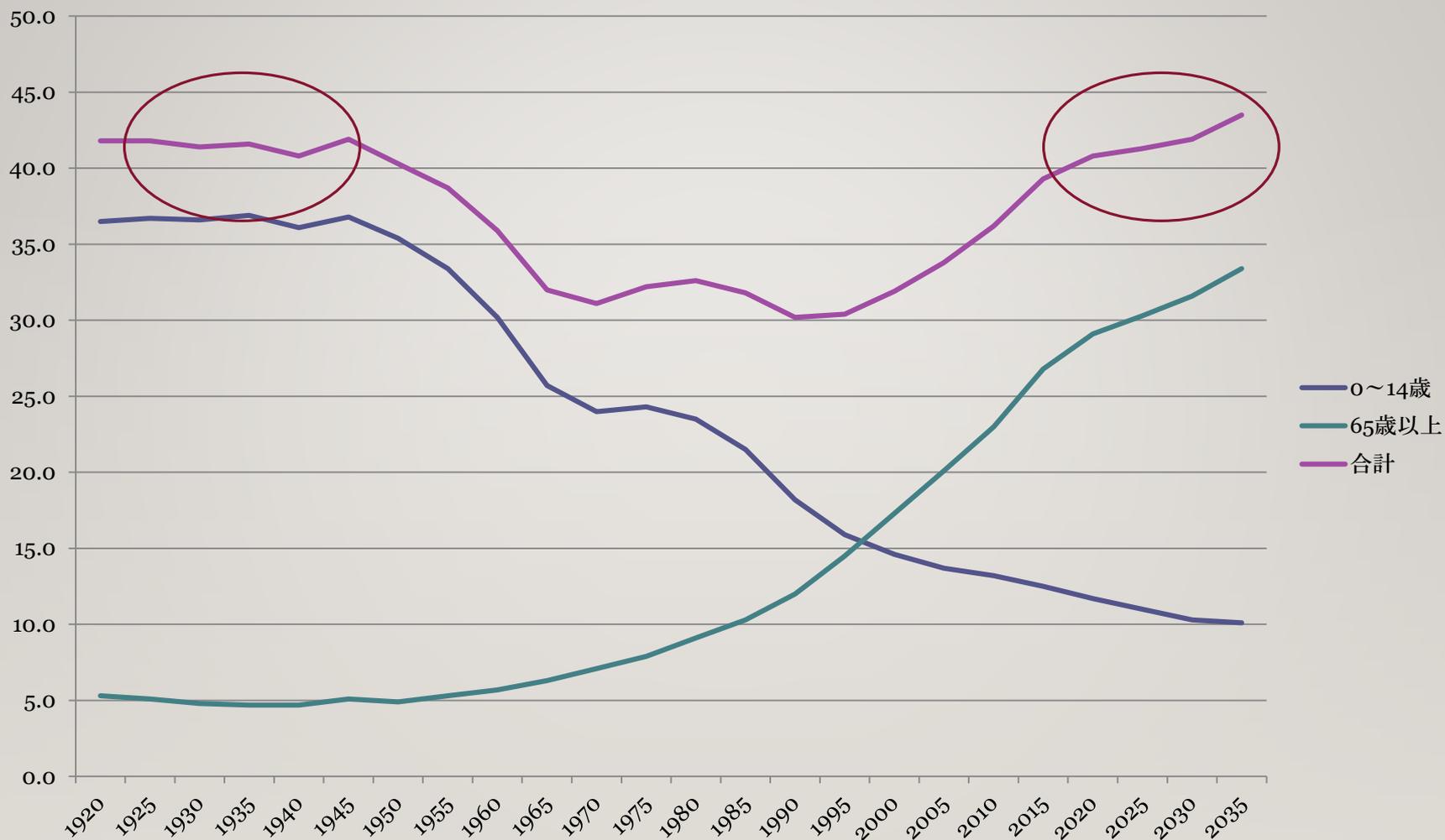
注：推計値のうち、2051年から2100年までは参考推計。

# 少子高齢化？

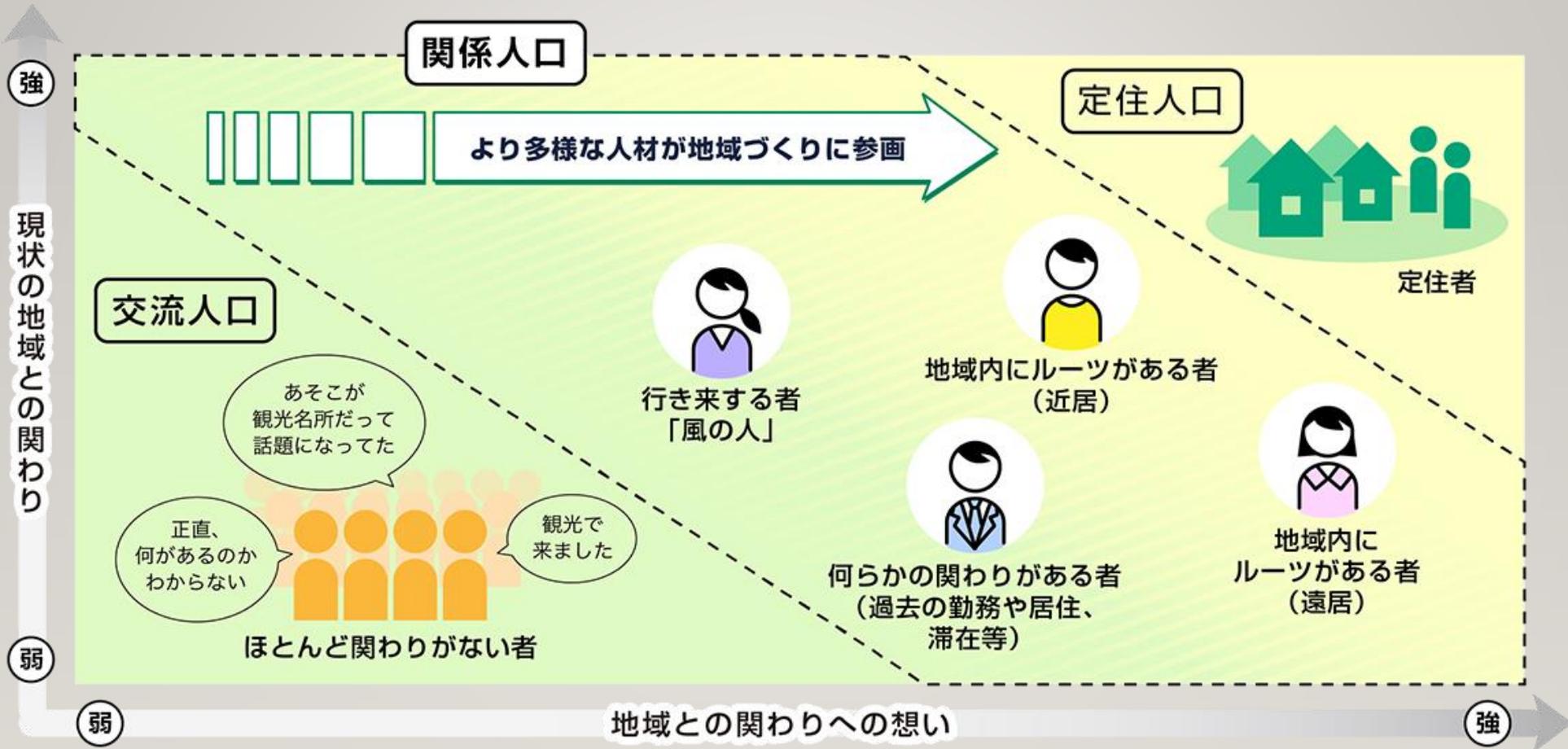
図3 年齢区分別人口の割合の推移（1950年～2019年）



## 人口全体に占める「子ども・高齢者」の割合の推移



# 定住人口・交流人口、「関係人口」



# 見えてくるものは？

---

- 人口は**100**年前の水準に「戻っていく」だけ
- 「子ども・高齢者」の割合は高度経済成長前に「戻った」だけ
- 「人口」の概念は「住民票に記載された人」だけ？

まともがゆれる？

---

# NPO法人スウィングの事例

---

- 2006年設立
- 障害者総合支援法に則った福祉施設（福祉的就労）
- これだけ見れば「普通の障害者福祉施設」だが・・・
- 〈定款に記載された目的〉この法人は、既存の仕事観や芸術観にとらわれない自由な働きや表現活動を基軸とした事業を行い、「障害」「健常」「大人」「子ども」「男」「女」等あらゆる「枠」を超え、同じ時代、同じ社会に生きる人々が多種多様な価値観のもと、出会い、関わり、支え合うことのできる社会環境づくりに寄与することを目的とする。

# NPO法人スウィング

---

- モットーは「ギリギリアウト」
- 「始業時間はまちまちだし、眠くなったら昼寝することが奨励されているし、特に理由もないのに休みを取る人には拍手が送られる。知らぬ間に僕たちの内面に救ってしまった窮屈な許容範囲の、ちょっと外側に勇気を持って足を踏み入れ自己規制を解除し続けることで、かつてはアウトだったものが少しずつセーフに変わってゆき、『普通』や『まとも』や『当たり前』の領域が、言い換えれば『生きやすさ』の幅が広がってゆく」

# 清掃活動「ゴミコロリ」

---

- スウィングでは仕事を「人や社会に対して働きかけること」と定義
- 対価の有無に囚われない活動を「OYSS!」(O = おもしろいこと、Y = 役に立つこと、S = したり、S = しなかったり)と総称
- 「OYSS!」を代表する取り組みが「ゴミコロリ」。2008年にスタート、火バサミとゴミ袋を手に「ゴミコロレンジャー」が毎月第3水曜日に出没

(オイッス! O=おもしろいこと・Y=役に立つこと・S=したり・S=しなかつたり)  
> 清掃活動「ゴミコロリ」 > コドモとアソブ > 京都人力交通案内「アナタの行き先、教えます。」



### 清掃活動「ゴミコロリ」

ミュージシャンCoccoの「ゴミゼロ大作戦」に触発され、2008年10月よりスタート。「美しい京都をより美しく」を合言葉に、雪の舞い散るさっぴいさっぴい冬の日も、頭フラつくあっぴいあっぴい夏の日も、京都・上賀茂地域を中心に、やって楽しく、見てオモシロく、月に1度（毎月第3水曜日）のゴミ退治を繰り広げています。ゴミが多ければ「一体どうなってるんだ!？」と憂き世を嘆き、ゴミが少なければ「拾うもん無いやんけ!？」と理不尽に毒づき、どっちにしたって元気ハツラツぶーたれながら、この世にゴミがある限り、我らゴミコロレンジャーの戦いはまだまだまだまだ続きます!



# 清掃活動「ゴミコロリ」

---

- 通常のゴミ拾いなら・・・
- ボランティア活動／感謝と温かい言葉・・・だが飽きる
- 「単純作業を魅力的な活動に変えること」に
- コスチューム姿の「ゴミコロレンジャー」
- 活動当初は・・・「不審者」として通報され、子どもには驚かれ、泣きわめき逃げまどわれる
- 活動を続けると・・・「町の人気者」、そして「おなじみのローカルヒーロー」に

# 清掃活動「ゴミコロリ」

---

- 「不審者」扱い「異物」→町の人気者、「おなじみのローカルヒーロー」に
- まちがきれいになる
- 一銭も儲からないのにみんな楽しみにしている

# NPO法人スウィングの事例

---

- 福祉の世界の「構造」
- 「健常者」と「障害者」
- 「職員」と「利用者」
- 「支援者」と「被支援者」
- という二分化された構造

# NPO法人スウィングの事例

---

- 複数の視点を持つことで
- 「福祉的就労」だけでない活動へ
- 「人力交通案内」
- 「ゴミコロリ」
- 「オレたちひょうげん族」
- → 「職員」と「利用者」の関係をないものに
- → 多様な「働き」の形を創造

「地域めがね」を通して観ると

---

